

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 1 月 31 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171400118		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやか グループホーム みたけ		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町井尻 6 5 番地の 1 (電話) 0 5 7 4 - 6 7 - 8 3 2 2		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町 3 丁目 7 番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価確定日	平成20年3月24日

【情報提供票より】 (平成 19 年 12 月 20 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	6.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 12 月 20 日 現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護 1	2 名	要介護 2	2 名
要介護 3	1 名	要介護 4	1 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 88 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	のぞみの丘ホスピタル、桃井病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道より300mほど入り、里山に接し、自然豊かで静かな環境に恵まれたホームである。広い敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービスやショートステイ等の建物があり、ホームは木造平屋の建物で外部からは民家を連想させる。母体施設である特別養護老人ホームが、行政への対応から食事の献立に至るまで、代行や指導を行うため、ホーム職員はケア支援に専念できる体制が整っている。以上に加え、利用者の家賃負担がなく、利用に伴う料金が低く抑えられているに反らず、ケアに十分な目配りが届いているため、利用者の明るい笑顔や楽しい会話が弾んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の評価では、改善課題となったものは特にない。気づき等により改善すべき点が生じた時は、出来る所から職員の協働にて速やかに対処している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	評価に対する取り組みは、大体出来ている。自己評価・外部評価を理解し、再確認をすることで、実践出来る所から職員の協働で課題に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、施設内の状況を報告したり、外部からの視点で助言を得、ケアに活用し、質を高めるように討議している。本年度から民生委員の参加も計画されている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族とのコミュニケーションは有効に活かされていて、申し入れ等があれば運営に反映されるように図っている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域との関わりは母体法人が窓口となり、連絡や対応がされているため、地域とホームの行事等には互いに参加しやすい状況にある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは母体法人の一員として、理念である基本方針にのっとり、利用者のサービスを支える独自の目標をかかげている。19年度目標として「個人を知る」「チームケア」「心のこもった挨拶」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、基本方針の実践を目指し、利用者の立場に立ったケアが提供できる様に、毎朝の申し送りの中で職員に話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に加入しており、事務局からの情報をもとに夏祭り、老人会の行事、地域の祭等、地域で参加できる行事には積極的に参加している。近所の方から野菜の差し入れもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価・外部評価を再確認して理解を深め、気付いた改善課題には、実践できる部分から、職員の協働により解決に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員に対し、管理者や職員からホームの現況を報告し、検討してもらうとともに、第三者の視点で助言を受け、ケアの質の向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	申請やグループホーム情報、介護保険情報などは、母体法人事務局が一括して処理している。また、直接的な窓口である包括支援センターとも連携がとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者に身体・精神的な変化があれば、その都度、家族等へ連絡している。また、毎月、利用者個々の近況を写真を添えて送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に家族と出会う機会を活用して意見を聞き、朝の申し送り時に随時意見を取り上げたり、職員会議で検討し、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。利用者への対応は担当制をとっているが、全職員が全利用者の事を理解しており、ダメージが起きない配慮がすでにある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	慈恵会として、研修は経験年数や入職年数で計画的に実施されている。また研修希望や、経験を生かし、ケアの質やモチベーションを高める取り組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内で、相互訪問による交換研修が行われ、ホーム内のレベルアップにつなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者には、同一敷地内のデイサービスやショートステイを利用しながら馴染みを重ね、安心・納得が得られるように配慮して支援に努めている。体験入居も出来るシステムがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日、午前中、デイサービスのリハビリ体操に職員と共に参加し、共通の話題を提供している。また、シイタケや野菜、花を一緒に育てており、利用者から生活の知恵を教しえてもらっている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活歴や家族からの情報を基に、利用者本人からの思いや意向を丁寧に聞き取り、職員の気付きと総合的に判断して思いに添える様になっている。また、朝の申し送りの場を活用し、利用者の思いを全職員が共有している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人および家族から要望・希望を丁寧に充分に聞き取り、その応じた事となすべきケアとカンファレンスで検討してケアプランを作成して、家族の理解を得ている</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の身体・精神的な変化に応じて、随時、見直し、家族や関係者と協議して新たな介護計画に切り替えている。また、定期的に見直しして家族の理解を得ている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>母体法人施設の行事や活動に参加したり、利用者の買い物、手紙の投函、美容院への同行等、ホームの出来ることには、申し出があれば、その都度、対応している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと契約しているかかりつけ医とは、いつでも対応してもらえる様に連携がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホーム入居時に利用者本人と家族を含めた話し合いを行い、重度化や終末期に向けた方針について文書化をしている。新たな申し出があれば、対応ができる様に再検討が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	情報の取り扱いには注意を払い、一人ひとりの人権を傷つけないように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を中心に、今一番何をしたいか、何をしたらよいかと出来る限り希望や要求に沿うように、職員会議や朝の申し送り時に職員間で情報の共有化を図り、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立は法人本部の栄養士が作成し、送られてくるが、ホームの独自性を活かし、調理メニューを一部変更し、季節料理等、利用者の要望に合わせている。調理の下ごしらえや食後の下膳は利用者と共に楽しみながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を決めてはあるが、出来る限り利用者の希望に応じている。夏は毎日入浴している。毎日のリハビリ体操参加の成果か、半数の人は自立で入浴し、介助を要する人も座位や立位がとれており、入浴は楽しみの1つとなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設のデイサービスへ自由に出入りできるため、馴染みの友人と語らうことができ、野菜や花の世話を通じて楽しみや気晴らしができる様にも支援している。利用者の居室には、老人クラブの年間予定表が壁に貼られている。月1回の外食も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠方への個別の外出対応はあまり出来ていないが、周辺は田園地帯であり、交通面では安全であるため、車いすでの散歩や散策は天候が良ければ、いつでも支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、常時、利用者の行動や動向に気を配り、鍵をかけない対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防等の訓練は併設の母体法人施設を中心に取り組んでおり、職員や利用者を含めて参加している。地域の協力体制もある。備蓄の食品や水は併設の母体法人施設で一括して保管している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー計算は、母体法人の栄養士が行っている。水分補給については、食事やおやつの時間、寝る前に出来るだけ取るように声をかけたり、配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、共同空間の居間は自然な採光、静かな音であり、室温のコントロールは職員がこまめに行うことで管理がされている。また、玄関には季節の花が活けられて、心地よい癒しが醸し出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、本人の使用していたダンスや机が持ち込まれ、その人らしい居室作りを行い、居心地の良い雰囲気を作り出せるように支援している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。